



新潟県作業療法士会 理事

渋谷 亮仁

(国立病院機構 西新潟中央病院)

新潟県作業療法士会が設立 40 周年という記念すべき節目を迎えるにあたり、私からも一言メッセージを添えさせていただきます。

私は 20 年前に OT として働き始めましたが、その年に開催された総会で入会し、会員になってから今に至ります。当時は士会活動が盛んで、自身のキャリアアップや職域を守ることになるのであれば、入会することに何の疑いもなく当然のことと考えていました。その後は友人や同僚と競うように新人研修をこなし、研修会や学会にもよく参加していたことを憶えています。時代は変わり、各イベントの参加者数はおろか、会員数も減少に転じている現状にあります。おそらくは士会に以前ほどの価値観を見いだせなくなった方が多いのではないかと感じています。人口減少時代にあることや、コロナ禍を経験したことも一因とはいえ、皆様に相応の価値を提示できなかった私どもの不徳の致すところと反省しております。しかしながら、私たちが OT として今後も仕事をし、対象者を支援する対価として収入を得ていく以上、決して履き違えてはならないことがあると思っています。人と人とのつながりを大切にすること。これを蔑ろにしてしまえば、言うまでもなく OT は存在することができません。ここで表す人とは、対象者や同僚に限らず、関係各所、または、友人や家族を含めても良いかもしれません。OT もつながりの上に成立している職業です。

節目というものは、絶対に忘れてはいけないことを再確認する場であると私自身は考えています。この緊縮の時代に開催するのは不適切だ、というご意見はもっともだと思います。ただ、組織力がなければ、職域や自身を守ることができないのも事実です。振り返りとこれからという視点で、OT を見つめ直す機会にしてみませんか。皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。